

通いの場ヒアリング結果
参加率向上の要因・取組等について

1 通いの場参加率上位 5 市町村の要因・取組等

市町村名	要因・取組等
東松島市	百歳体操団体やサロン活動団体においては常に団体の詳細を把握しており、認知症カフェ等の活動については補助金実績報告より参加者数等の情報把握を行っている。 令和 4 年度以前は計上できていなかったが通いの場の活動として認められる部分について、計上方法を見直したことで令和 5 年度の参加率向上に繋がった。
村田町	①老人クラブがグランドゴルフ及びペタンク を活発に実施。ある 1 地区は活動場所が工事により使えなくなり、毎週移動して練習するようになったため必然的にドライバーとなる男性が増加。（口コミで「乗せて行って」と誘い合って増加した） ②生活支援コーディネーターの支援により、協議体委員である区長さん（男性）を中心に新たなグランドゴルフ愛好会が令和 5 年度に立ち上がった。参加者の半数が男性。 ③グランドゴルフ・ペタンク・ボッチャ・モルック（ニュースポーツ）など体操・運動系活動が計 7 か所あり、男性参加者が多い傾向。 ④健康マージャンも「通いの場」として位置付けており、男性参加者が多い。令和 6 年度は半数以上が男性となった。 ⑤生活支援コーディネーターが把握した月 1 回以上の活動をしているグループは、「通いの場」として位置付けており、生活支援コーディネーターと町は、毎月 1 回の定例会で情報共有し把握している
美里町	令和 2 年度より、介護予防と見守りや交流を進めるため、住民主体の通いの場としての「いきいき百歳体操」の立ち上げ支援を始めた。住民同士の交流を通して、互いに支え合い・助け合う地域づくりに取り組むために美里町社会福祉協議会と連携し、行政区単位で支援を行っており広がりを見せている。社会福祉協議会職員が通いの場へ出向き、情報把握を行っている。また、継続して活動できるよう支援している。町社会福祉協議会に情報収集を委託。参加者の状況等把握している。 コロナ禍中は、コミュニティセンターで実施している集まりについて、担当課（まちづくり推進課）で年齢等を把握していたため、国調査に計上していたが現在は把握できていない。

2 通いの場男性の参加率上位 5 市町村の要因・取組等

市町村名	要因・取組等
東松島市	百歳体操団体やサロン活動団体においては常に団体の詳細を把握しており、認知症カフェ等の活動については補助金実績報告より参加者数等の情報把握を行っている。 令和 4 年度以前は計上できていなかったが通いの場の活動として認められる部分について、計上方法を見直したことで令和 5 年度の参加率向上に繋がった。
松島町	男性が参加しやすい通いの場があるため ・囲碁、将棋、麻雀など男性が好むサロンがある ・老人クラブに所属する方は男性が多く、その方たちがサロンに参加していることが多い ・男性のみのサロンがある
美里町	男性の参加者がいない通いの場もあるが、参加者が近所の方に声をかけたり、男性も参加して楽しめる内容を参加者同士で話し合い、取り組んでいる。

3 通いの場 65 歳以上 75 歳未満の参加率上位 5 市町村の要因・取組等

市町村名	要因・取組等
東松島市	百歳体操団体やサロン活動団体においては常に団体の詳細を把握しており、認知症カフェ等の活動については補助金実績報告より参加者数等の情報把握を行っている。 令和 4 年度以前は計上できていなかったが通いの場の活動として認められる部分について、計上方法を見直したことで令和 5 年度の参加率向上に繋がった。
蔵王町	健康運動指導士等の専門資格のある講師に指導を依頼し、しっかり運動する内容したことで、若い世代の方が参加しやすかった。 趣味活動としての通いの場が多く、活動参加への選択肢が多いことも要因と思われる（麻雀サロン、オカリナ、琴、フラワーアレンジメント、生け花、パッチワーク、編み物等）。 生活支援コーディネーターが活動内容のチラシや冊子を作成し、地域に広報したことも参加する方が増えた一因と考える。
色麻町	介護予防生活支援サポーターが主となり、企画運営されている。積極的に対象者への声がけをし参加を促している。 介護予防生活支援サポーターが、参加者名簿（開催回数、参加者情報等）を作成し、年 1 回町に提出。それに対して補助金を出している。 ※R5 は年 2 回、R6 は年 1 回としている。
美里町	介護予防把握事業において、70 歳の方にアンケート行い、集計しその後、町や社会福祉協議会の事業や通いの場や社会参加などフレイル予防について情報提供している。くらしのサポーター、介護予防サポーター養成講座受講者が自分の地域の通いの場に参加するなど活動につながっている。

3 通いの場 75 歳以上の参加率上位 5 市町村の要因・取組等

市町村名	要因・取組等
東松島市	百歳体操団体やサロン活動団体においては常に団体の詳細を把握しており、認知症カフェ等の活動については補助金実績報告より参加者数等の情報把握を行っている。 令和 4 年度以前は計上できていなかったが通いの場の活動として認められる部分について、計上方法を見直したことで令和 5 年度の参加率向上に繋がった。
村田町	①令和 4 年度はまだコロナ禍により通いの場は再開しても自粛する方がいた。令和 5 年度はコロナ感染症の 5 類移行を受けて、自粛していた方が一気に出始めたことが一番の要因と推測される。（生活支援コーディネーターが丁寧に声をかけ活動再開を後押しした） ②新たなグランドゴルフ愛好会が立ち上がった。老人クラブがベースとなっているため、75 歳以上が多い。 ③増加した要因の詳細分析はしていないが、生活支援コーディネーターとの話し合いの中では、全体的に参加者が増加していることはあるが、参加者の高齢化は否めずコロナ禍の間に「75 歳に到達した」という要因があり、今後の運営の後継者不足への不安もあるとの話になっている。
美里町	特に年齢を限定した取り組みは行っていないが、行政区単位で行政区の事業としていくことで地域住民全体が参加しやすい体制になっている。通いの場が見守り合い、助け合いの場であることを生活支援コーディネーターが啓発していることで住民同士が声を掛け合って参加している。